

## 1 研究主題

自ら学びを切り拓く児童の育成  
～アクティブに学び合う学習過程の工夫を通して～

## 2 主題設定の理由

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新，人工知能の発達により，社会構造や雇用環境は大きく変化しており，将来を予測することが困難な時代となっている。今後の社会を生きる子どもたちには，このように変化の激しい時代だからこそ，一人一人が持続可能な社会の担い手として，個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

平成 29 年 3 月に告示された小学校学習指導要領解説算数編では，学校教育の役割を，

子ども達が様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働して課題を解決していくことや，様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

としている。つまり，学校は，児童が新たな問題に出会ったときに，「どうすれば解決できるのか」と自分なりに考え実行したり，他者との協働により，解決策を導き出したりできるような児童の育成を目指していく必要がある。

また，中央教育審議会答申において，教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を，

ア「何を理解しているか，何ができるのか（生きて働く「知識・技能」の習得）  
イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」  
ウ「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

の三つの柱に整理されている。従来の「何を学ぶか」という学習内容に加え，「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」の視点が新学習指導要領では重要となり，そのためには，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められている。つまり，日々の授業を通して，子ども達が学ぶ喜びや大切さを感じながら，自ら考え表現していくことや，対話を通して考えを深めていくような協働する力を養っていく必要がある。

本校児童の実態としては，学習状況調査の算数科の結果を見ると，県正答率とほぼ変わらない。「思考・判断・表現」の正答率も上昇した学年が多い。しかし，解答を分析する中で，「問題の意味を理解して情報を整理すること」や，「それを図化すること」を苦手としていること，児童間の学力差など，課題が見えた。また，授業で考えを共有し比較・検討をする場面で，一部の児童の考えや教師の発言が中心になってしまい，児童の主体的な学びへとつながらなかったことも課題として考えられる。これらの課題解決を図るため，図だけでも描くなど解決に向けて取り組む力をつけること，教師の出番を吟味し，児童が中心となって活動する場や時間の確保が必要だと考えた。児童がアクティブに学び合うことができるような学習過程の工夫をしていきたい。

そこで、昨年度までの研究内容を活かしながら、算数科の学習過程において、問題解決に向けて見通しをもつことができる導入（ミッションタイム）の工夫や、児童が中心となり自由に学び合う展開（アタックタイム）の工夫、毎時間の授業を大切にすることで次につながるまとめ・振り返り（コンプリートタイム）の工夫という点から授業改善を行えば、児童は、自ら学びを切り拓くことができると考えた。以上のようなことから、本研究主題を設定し、研究実践に取り組むことにした。

### 3 研究の目標

算数科において、自ら学びを切り拓く児童の育成のために、児童がアクティブに学び合う学習過程のあり方を明らかにする。

### 4 研究の仮説

児童がアクティブに学び合う学習過程の工夫を、以下のような点から行えば、児童は、自ら学びを切り拓くことができるだろう。

- (1) 問題解決に向けて見通しをもつことができる導入（ミッションタイム）の工夫
- (2) 児童が中心となり自由に学び合う展開（アタックタイム）の工夫
- (3) 毎時間の授業を大切にすることでまとめ・振り返り（コンプリートタイム）の工夫

### 5 研究の内容

#### (1) 日々の授業実践

ア 問題解決に向けて見通しをもつことができる導入（ミッションタイム）の工夫

- ①着目させたいこと、考えさせたいこと（数学的な見方・考え方）を明確にする。
- ②児童が「問い」を生み出すような問題提示の工夫をする。
- ③思考の可視化（具体物、図、言葉、説明など）ができる工夫をする。

イ 児童が中心となり自由に学び合う展開（アタックタイム）の工夫

- ①教師の出番を吟味し、児童が中心となって学び合う場や時間の確保をする。
- ②児童の様子を見取り、思考の整理をする。

ウ 毎時間の授業を大切にすることでまとめ・振り返り（コンプリートタイム）の工夫

- ①数学的な見方・考え方をキーワードとして整理した板書計画をし、児童の言葉でまとめる。
- ②学習を振り返る時間の確保をする。

エ 支援を要する児童への手立ての工夫

オ ICTの効果的な活用

#### (2) 日常の学習指導の工夫

ア ノート（図化）指導の工夫

イ 家庭学習の工夫

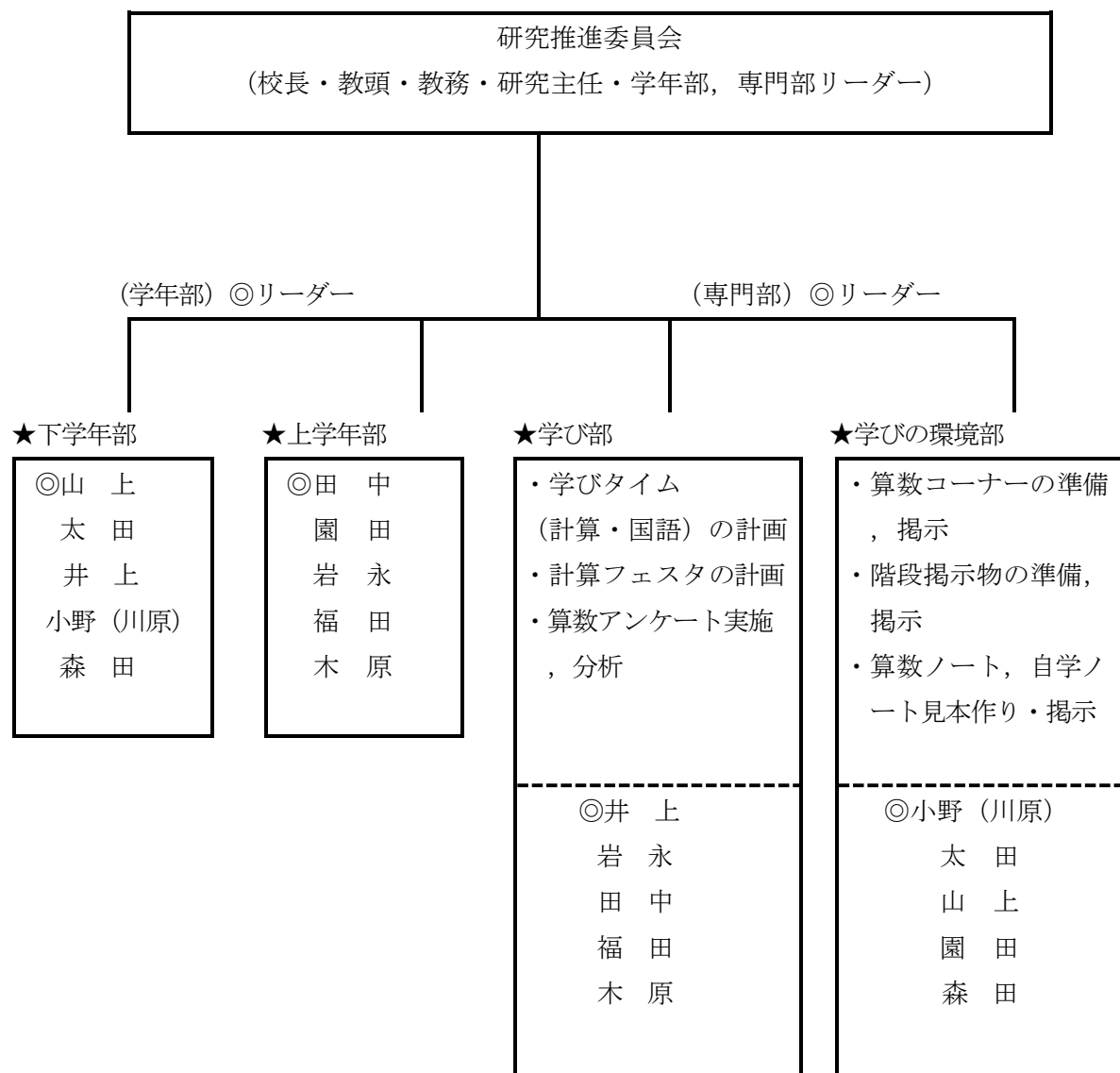
ウ 環境整備によるノートの内容の充実化

エ 基礎的基本的な内容の定着

## 6 研究の方法

- (1) 授業研究会や実践発表会
  - ・全学級が研究授業を（上・下で全研1つつ・他はグループ研）行い，事前・事後の意見交流を行うことにより，有効な指導方法を探る。
  - ・佐賀県教育センター作成の「授業改善セット」を活用し，定期的に振り返る。
  - ・児童が，既習の知識・技能を活用できるための校内環境の整備をする。
- (2) 講師招聘及び研究発表会への参加などによる理論研究
- (3) 児童の実態把握
  - ・学習状況調査やNRT，アンケート等の結果分析により児童の実態を把握する。

## 7 研究の組織



## 8 研修の計画

月日	計 画	月日	計 画
4/ 6	研究推進委員会	10/ 4	学年部会（公開授業準備）
4/19	全体研究会 （研究概要等提案・授業者決定）	10/25	前日準備
4/26	専門部会	10/26	鹿島市教育研究大会 公開授業（3年・6年）
5 月	算数アンケートの実施	11 月下旬	算数アンケートの実施
5/10	専門部会	12/ 6	専門部会
5/24	事前研（5年）	12/13	紀要について
6/ 1	全校研（5年） 講師：長崎国際大学 講師 浦郷 淳先生	1/24	今年度のまとめ
		2/28	来年度に向けて
6/14	事前研（1年）	<b>※研究授業</b> ・ 10月26日（木）の公開授業 上学年1クラス、下学年1クラス ・ 公開授業前の提案授業の全校研 6月（高学年）7月（低学年） <b>〈講師〉</b> <input type="checkbox"/> 低学年 西部教育事務所 中島 良太先生 <input type="checkbox"/> 高学年 長崎国際大学講師 浦郷 淳先生  ※グループ研は9月に実施予定	
6/28	専門部会		
7/ 5	全校研（1年） 講師：西部教育事務所 中島 良太先生		
7/12	前期前半のふり返り		
7/19	専門部会		
8/ 2	・ 理論研究 講師：長崎国際大学講師 浦郷 淳先生		
夏季休業中	・ 10/26分指導案作成 ・ 専門部会 ・ 指導案検討会		
8/30	事前研（ 年）（ 年）		
9 月	G 研究授業 （2年）（年）		

## 9 研究の構想

